

会 議 録

会議名	令和6年度 第1回山形市救急救命業務検証会議
開催日時	令和6年8月19日(月) 午後1時30分から午後3時00分
開催場所	山形市立商業高等学校 ミーティング室
主催	山形市消防本部
出席者 (敬称略)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成員 (9名) (五十音順) 小関裕之、後藤道子、長濱俊伸、野口比呂美、廣部公子、藤澤睦夫、細谷真紀子、森野一真、渡辺英一 ※金谷透 (欠席) ・ 山形市 (7名) 市長、消防長、通信指令課長、救急救命課長、通信指令課補佐2名、救急救命課長補佐
傍聴者	・ 2名(記者)
検証事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指令業務の課題への取り組みについて (通信指令課) ■ 救急救命士の継続教育病院実習の改善に向けた取り組みと今後の展望について (救急救命課)
報告事項	■ 映像通報システム (Live119) の運用について (通信指令課)
座長(敬称略)	森野一真
資料	配布資料参照
作成者	山形市消防本部 通信指令課長補佐 村山裕二

■市長あいさつ

市 長

本日はお忙しい中、また非常に暑い中「山形市救急救命業務検証会議」に御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

今回から新たにメンバーに加わった方々をはじめ、皆様には是非、今後とも山形市の救急救命体制の強化に御協力を賜ればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

前回の検証会議におきましては、最新の情報通信技術を導入いたしました映像通報システム「Live119」の活用状況のほか、応急手当普及啓発推進事業の新たな取組と今後の展望について検証していただきました。皆様からいただきました御意見を踏まえて、業務の見直しや、職員の技術向上、更にはデジタル技術を積極的に取り入れた業務の迅速化・効率化に取り組んでいるところであります。

本日の会議におきましては、通信指令体制の更なる強化といたしまして、指令時間の迅速化などの課題への取組のほか、救急救命士の継続教育病院実習の改善に向けた取組について検証していただきます。また映像通報システム「Live119」の運用における改善点などについても御報告をいたします。

今後とも、いただいた御指摘をしっかりと生かしながら、救急救命体制の整備に万全を期してまいりたいと思いますので、それぞれの立場で忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

■座長選出

森野一真 山形県立河北病院 救急科

■検証事項

1 指令業務の課題への取り組みについて

(通信指令課担当：荒井通信指令課長説明) ※【会議資料1】により説明

《構成員からの質問・意見等》

構成員

2024年6月現在の速報値として1分7秒ということで、おそらく冬季で件数が増えると長くなっていくと想像したのですが、2014年から2019年までの50秒台の数値に近づいているとはいえ、若干長くなっていることに対して何か理由があれば教えていただきたい。

通信指令課長

2024年6月現在、1分7秒という数字ではあるが、今年度になり最近また、コロナウイルス感染症が再び流行しており、第11波などとも言われている。それで聞き取りが若干まだ伸びているという形になっており、そのような結果となっている。

座長

通信指令課で聞き取り用のプラットフォームを作成して、それが標準化されているということになっている。その中で、予告指令の後に発熱等の症状や情報があった場合には、時間が発生してしまうと思うが、それでよろしいか。

通信指令課長

はい。

2 救急救命士の継続教育病院実習の改善に向けた取り組みと今後の展望について

(救急救命課担当：清野救急救命課長説明) ※【会議資料2】により説明

座長

委員の皆さんは想像しづらいかもしれないが、救急救命士は国家資格の試験を合格した後、就業前の実習や、その後の継続的な実習等において、患者さんに接触したときの評価や、今お話があった輸液の確保、いわゆる点滴の技術を維持するために病院に出向いて、救急外来で実習をさせていただくというような制度になっている。説明があったように、実習のやり方を少し変えることで、だいぶ個人の救命士の皆さんの技術が向上しやすくなったという報告だったと思う。

構成員

いつも前向きに、新しくより良い形にしてくださる御努力、本当にありがとうございます。

令和6年度からの修正内容がまだ5か月も経っていないが、実際に行われて救急救命士の皆さんは、どのような感想が出ているのか。前より良いとか、これまでどおり一般業務との兼ね合いで良かったという方が多いとか、もしあれば、お聞かせ願いたい。

救急救命課長

現場の救急救命士からの声としては、実習病院での実習回数が確保出来ている、先生方との対話・関係が保たれているという実感が湧いているようであり、大変効果が出ているのではないかと

と思う。これまで令和6年の静脈路確保の成功率が一応出ているが、実際数字としては、69.9%の成功率でアップしている状況である。

構成員

4ページの(3)、実習評価の見直しという中で、ちょっと気になることがあった。いろんな会議に出席しているが、どちらかというと言いつ放し、やりっ放しというレベルで終わっている。それは本来、そうあってはならないということで考えるとすれば、救急救命検証会議については、非常に良い方向で会議が進んでいるのではないかと、常に問題を見つけながら改善をしてその成果を発表、あるいは反省は反省で、きちっと明記していただく、そういう面では非常に良いと思うが、評価の方法も、コメントについても具体的な指摘がごくまれだとか、そんな思いを抱くことが書いてあるが、その辺の中身はどうか。

救急救命課長

具体的な記載はなくても、先生方から病院実習中に指導は受けていると思われる。それをもって、書面での回答で記載がないということで、実習生は評価を受けているかと思われるが、実際記録に残したということで、改めて双方向性型の検証表にした。

構成員

すごく良い会議だと私は思っている。できれば他のいろいろな会議についても、このような形であれば、会議の意味があるのではないかとということで、非常に期待を申し上げている。そういう意味でなお一層よろしくお願い申し上げる。

座長

その実習を行った時に、それぞれその場で、こうしたほうが良いというアドバイスをいただくのですが、今、救急救命課長が言ったように、記録として、この人はどういう実習をして、このところをちゃんとしたほうがいいよ、というような評価表になっていなかったのも、自分としてはこういうことをやったんだけど、どうでしょうかというようなコメントをつけて、評価表にしたことによって、指導員の先生からのコメントもいただくことができ、大変良いことだと思う。

構成員

平成22年度から、救急救命士3名が救急車に乗車し出向と書いてあるが、図の中に平成27年度からの状況しか記載がない。平成22年から平成26年までどのような状況があって、同じような状況だったのかということを知りたいことと、平成22年の始まったときに医療機関となる場所への説明等々はどのように行われたのかをお伺いしたい。

あと今回いろんな面で、実習体制システムを変えたということで、静脈路確保の実施件数が増えてきていることはすばらしいと思うが、この平均的に静脈路確保の成功率が概ね55%前後と低い水準というのは、何と比べて低いということかをお聞きしたい。

救急救命課長

図1の27年度からのグラフの表し方で、22年からについて記録データが残っていないため提示することが出来ず申し訳ありません。確認できる範囲で次回、何らかの機会でご報告したいと思っています。

22年からの病院実習は、国からの手引や細目等について準拠したものになっていたが、先生方の個人に頼るところが多いことから、指導に統一性がない現状だった。それを、改めて統一さ

せていただいたのが、今回の取組になる。

あとは55%という数字は、現場で処置をするか、搬送を優先するかを検討、調整に当たらなくてはいけないと思う。医療機関に行くと必ず静脈路確保は100%実施し、その後の治療に繋がる訳ですけども、現場で55%というのは、目標値の数値として、私どもの目標値としては低いものですから、全国平均は分からず、そういう数字も出てない状況ですが、判断として低いということで、表させていただいたのが現状である。

構成員

目標値は何%としているのか。

救急救命課長

今のところ、70%を超える数字を目標にしている。

座長

もっと高い、数字を出している消防も沢山あるので、願わくは、百発百中といいますか、それを理想に目指していただければと思う。現場は非常に難しいので、現場は病院とは違うので、比較は難しいかもしれない。

構成員

3ページの課題のところがありました、5日間連続で人員調整の苦慮というところの具体的なデメリットが何だったかということが明らかになっているかということと、今現在体制が変わって、1日から2日ずつの合計5日ということになった、出向方式に変えて現場の声などがもし聞こえていれば教えていただきたい。

救急救命課長

救急救命士も、消防の部隊の中での編成になります。その編成の中で、必ず救急救命士2人を配置した上での救急隊を目指しているところではあるが、やはり出張所となると、3人の救急救命士のうち1人病院実習に行ってしまうと休めないというような細かいところの調整が必要になってくる。あとはいろんな人員不足などがあれば、調整する必要がある、問題としてはそこが大きかったと考えている。今回、1日若しくは2日間、2日間というと1当務ですね、消防隊でいうと1回の勤務で終わるのであれば、月の休みなんかも調整しやすいということで、良かったという声が出ている。

構成員

2点ほどお伺いするが、いわゆる救急救命士を養成するような、大学等の高等教育機関というところには静脈路確保のための練習資材はあるが、消防本部には練習資材あるのか1点と、例えば消防庁などで、救急救命士に関するオンデマンドなどの教育のようなものがあるのかどうかをお聞きしたい。

救急救命課長

救急の訓練用の資機材というと、高度シミュレーターというものがある。山形市消防本部にもあるが、なかなか台数が少ない。それともう一つ、腕だけのモデルタイプもあるが、数が少ないということで、各出張所なりの所属を回って訓練に当たっているというような状況である。

あとは、消防庁からの教育カリキュラムというようなことであるが、やはり、各市町村は各県のメディカルコントロールの協議会に起因されているところが多く、それに基づいて県で教育カリキュラムを積んで、継続教育を行う体制をとっている。それもやはり県内の資機材を集めて調

整を図りながら、訓練教育を積んでいくという状況になっており、大変難しい現状である。

座長

今の質問はオンデマンドで実技の動画とか、そういったものがありますかという質問じゃないかと思うが。

救急救命課長

実技の教育訓練用の映像は配信されている。

構成員

ただいまの話の中で、非常に訓練用の資材が少ないと回答であったが、今後その資材を増やして、消防本部内で訓練が出来るような形をとるようなお考えはあるのか。

救急救命課長

毎年訓練計画を立てて、資機材の要求はしているが、十分満足できるようなものは整っていないので、県内若しくは近隣の市町村と協力しながら、資機材を調整して、訓練に取り組んでいきたいと考えている。

構成員

静脈路確保率という55%なり68.1%、先ほど69.9%というお話があった。これは現場での数値として書いてあったと思うが、これはその前の判断として静脈路を確保したほうが良いのか、しないで運んだほうが良いのかという判断も含めて、この率になっているのかが1点。

あともう1点が、参考までにお聞きしたいが、現在58人の救急救命士がいて、イメージ的に、山形市全域で、特定の時間に何人ぐらいの救急救命士が働いているのか、例えば昼12時、夜12時だったら違うと思うがイメージで結構。当然出張所なり本部なりいろいろ部署があると思うが、どのくらいの方が、1勤務で働いているのかお聞きしたい。

救急救命課長

救急救命士が行う静脈路確保については、まず、特定行為の指示ということで先生方に、やりなさいという指示をもらわなければいけない。指示をもらうということはやるということになるので、そこに至る判断が必要である。これはもう、静脈路確保が出来ると思えば指示をもらうことになる。それを踏まえて、先ほど申し上げた、未実施数が減ったというの、大きな数字であるというふうに考えている。静脈路確保をして、お薬を投与するというものについてはプロトコールで定められている。そのプロトコールに則って活動がなされることになるので、御理解いただければと思う。

あとは58人の救急救命士についてですが、山形市の救急隊8隊あり、ここに複数の救急救命士が搭乗できるように、人員を配置している。2人以上の救急救命士が乗車しており、救急車が8台、16人の救急救命士が24時間活動しているというような状況です。

座長

私のほうから2点、58名ということだったが、4ページだと、49名の方は振り分けている、残り9名の方は、ここから外れているが、ここなども当然実習はされているのか。

救急救命課長

残り9名というのは、挿管実習の4名が外れている。あとは就業前の研修を受けた5名が除かれることから、49名という数字になっている。

座長

常時ですね。

あと2年間の80時間の実習時間の確保は、今回行っているカリキュラムというか、この調整でも確保できるということでしょうか。

救急救命課長

はい。出来ている。

■報告事項

映像通報システム（Live119）の運用について（通信指令課）

（通信指令課担当：荒井通信指令課長説明）※【会議資料3】により説明

構成員

年3回スマートフォン講座を開催し、8月9月10月に2日間ずつやるが、それに私も参加した。お越しいただいて、説明をしていただいた。会員の方にアンケートみたいな形で聞き取りを行い、その結果、持っていることは持っているんだけど、どう使えばいいかわからない意見がある。例えば3ページに書いてある映像伝送システムという中で、1番下にショートメッセージと書いてあるが、ショートメッセージとは何なのか。メッセージに書いてあるアクセスとは何なのか。そして、ダウンロードしてくださいとか、一般的には皆さんは分かるかもしれないが、私のレベルではそれすらも分からない。そういう中で、いろいろ大変でしょうけども、本当に何も分からない人に、スマートフォンを教えて、覚えてもらうという視点で、是非もう少し突っ込んだ形で、手引書なんかもあれば大変ありがたいし、いろいろな形で使えると思う。

また、市長から頑張ってもらっている、健康都市づくりの中で、SUKSK（スクスク）講座があった。そのときはスマートフォンを使っていればポイントが貯まる。それでも、どうするのか分からない。分からない人を集めて説明して教えていただいたが、そんなレベル。その辺のレベルを含めて、より普及するために、少し手引書あたり、お考えいただいて、私どもに分かりやすく、使いやすくするような形で、これが出来れば大変ありがたいと思っている、よろしくお願ひします。

通信指令課長

今後、老人クラブ連合会さんをはじめ、「Live119」普及啓発のために、日程を調整しながら継続して、御理解いただけるまで、一人一人にご説明申し上げます。

構成員

「Live119」の実際の、今年度途中かもしれないが、運用数はどの程度なのかお伺ひしたい。

通信指令課長

昨年度から申し上げます。17件のうち7件で実際に使用していただいた。実際に使用したのは、地点確認のみとなっている。口頭指導までは行っていない形になる。

令和6年度は、途中ですが28件。使用出来たのが半分の14件で地点確認が12件と現場の状況把握のために利用させていただいたのが2件となっている。

構成員

運用方法があるおかげや、少しずつ使い慣れてきた姿がこの数字に表れていると感じたところだったが、まだまだ取組が分かりにくいというか、スマートフォンに慣れている方にとっては、気軽に使えるものになってきている。一方で、そうじゃない方も多いということを考えてときに、「Live119」の周知もそうだが、そもそも通報のときに大事なことだったり、例えば地点確認というところを普段から意識してみましようっていう啓発だったり、住所特定というところがすごく重要ということを改めてこの「Live119」に載せて、いろんな方に届けるというのも一つ、指令の時間が短くなるという、1番最初の会議資料1にも繋がることなのかなというふうに感じた。「緊急を要するときには利用してください。」みたいな啓発も一層力を入れていただきたいと思う。

また24時間健康・医療相談サービスカードに関して、教育現場への普及というところがなされているのかどうかお伺いしたい。具体的には、教員に向けて、この24時間健康・医療相談サービスカードが実施できるように普及されているのかどうかお伺いしたい。他県の小学校で本当であれば救急搬送すべき事案を搬送出来なかったなどの事案もあり、先生方がもし、こういうものを使えるということを知っていればという希望を持ったところであるが、いかがか。

通信指令課長

「Live119」に関して、地点確認を含め現場に到着するために、いち早く迅速にというのが大事なところで、今の御意見を参考にさせていただき、今後より良い方向に持っていきたいと思う。

24時間健康・医療相談サービスについては、学校関係においても今年度も含め、チラシを数千枚単位で配布している。救急講習においても必ず配布するような形を取るなどして、幅広く広報活動は行っている。

構成員

こちら山形市の消防本部ですので、山形市の老人クラブというところの連携がすごく強いなというところは感じたが、山辺町や中山町等の連携に関して現状はどういう状況なのかなというところをお伺いしたいと思う。いわゆる受け身、来たら実施するということなのか、積極的に実施するというふうにお考えか。

通信指令課長

要望があれば必ず行きます、こちらから積極的に、講習関係も行うような形で体制をとっている。山形市、中山町、山辺町同じ形で行う。

構成員

仙台市でもこのシステムを昨年4月より本格運用しており、御紹介させていただければと思う。山形市でも活用ケースがあったが、仙台市でも重要なシステムと考えており、昨年2月に試行してからの数字で、速報値で現在まで依頼件数が146件、そのうち大体100件程度を活用させていただいた。中身について、火災は少なく、救急が多くて、その中での奏功事例として、転落外傷で何かの作業をしていて落ちた際、出血の具合が分からない、そういった時に撮影をお願いしたら、大量の出血をしており高エネルギー外傷と判断し直ぐにドクターカーも要請した。

もう一つ事例で、秋保町という中心部から外れたエリアで、温泉があるところですが、そこで具体的に20代の従業員の男性が倒れたが詳細不明という指令が入った時に、この「Live

View119」をお願いして、聞き取りで分からないことが多かったが、実際映像を見たら、急病ではなくてフォークリフトに挟まれてしまっており、高リスク外傷ということで、ドクターヘリも出動させ処置を行ったということもあった。

こういった部分で、このシステムは有効だと思っており、今後も山形さんと同様に使っていきたいと考えている。

配布させていただいた資料の紹介で、先ほど構成員からありましたとおり、119番の通報と併せ、この「LiveView119」の広報に力を入れている。山形さんと同様にYouTubeと合わせてポスター、チラシを救命講習や地域の訓練の際に配って、広報を実施しているところで紹介させていただいた。

構成員

地区コミュニティでも、高齢の単身の方も増えつつある。救急にお世話になることが増えているが、そのとき1番困るのは、かかりつけの病院の情報なり投薬カードの情報です。それを、地区社協なり民生児童委員なりでお配りをし、記入して分かる所に貼ってくださいとお願いをしておりますが、貼られていない。分かる所に置くと、情報が漏れると心配する高齢の方もおり、どうしてもしまい込んでおり、何処を探せばいいのか分からず苦労した経験をしている。消防署でいろいろな場面でPRしてもらっていると思うが、その場で分かるところに置いてと一言言っていただきたい。

座長

貴重なご意見ありがとうございます。この辺りについては、いかがか。

構成員

山形市の社会福祉協議会が作っている見守り安全カードではないか。

座長

その件で消防さんが知らない、多分コメントしようがないと思うが、これについてはいかがか。

救急救命課長

山形市社会福祉協議会の社会福祉協議協力員の方の活動の集会の時に、消防本部から参加させていただいておりました、救命講習をやっていただくという取組の中で、いろんな見守りであり、声掛けなり連携なりのお話をさせていただいている。

座長

「Live119」に戻るが、これはお金の問題もあるかもしれないが、テストサイトというか、ダミーサイト等を設定して、実際にそれを使って、アクセスしていただくとか、その辺りの検討をすると、お年寄りの方が実際その映像を見て、やり方を言っても、なかなか分かりづらいので、ダミーですけれども、そこにスマホが出来るような、システムを作ると、もっと分かりやすいのではないかと思いますので、これはそんなに難しくないと思うので、検討いただければ。あと約半分ぐらいの方が「Live119」は使いづらいということですけども、これは電波の状況が悪いとか、あるいはそのカメラが、上手く使えないとか、そういったものが理由というのはあるのか。

通信指令課長

電波状態が悪い場合も多い。特にトンネル・地下街とか、電波が弱いと繋がない場合もある

る。また、注意点として複数名でないと、どうしても応急処置に当たる方が、おろそかになってしまう可能性もあり、使用頻度が限定されるという形になっている。

座長

はい、ありがとうございます。それでは、何かございますか。

そうしましたら、予定していたものは終了となりますので、事務局にお返しします。

救急救命課長

山形市消防本部では救急隊の現場滞在時間短縮と傷病者に適した医療機関への早期搬送を目的として、令和6年7月12日から、救急医療情報共有システムを運用開始しております。1か月が経過しておりますけども、現在、システムの利用率を上げることで、より多くの傷病者の早期搬送に繋がることができると考えております。現場の声として、救急隊からは、当初はタブレット端末の操作に時間がかかったが、隊員間の連携により操作が早くなった、現場の写真や心電図の画像を医療機関と共有でき、現場でのやりとりがスムーズになったなどの意見が出ております。また、医療機関側からも、現場や怪我の写真を見られるのはすごく助かると、傷病者の受入れに必要な情報がシステムで確認出来るので楽になったという率直なご意見をいただいているところでございます。今後は救急隊と関係機関に対してシステムの使い勝手に関するアンケートを行いまして、今年中にシステムにいろいろな機能を追加するためのアップデートを予定している。操作しやすいシステムにすることで、救急活動が効率化し、市民の皆さんに対して、システム導入の効果として還元したいと強く考えているところでございます。

なお、第2回の会議の席上で、システムの運用効果を取りまとめ、御報告させていただきたいと考えているところでございます。

■次回開催について

(救急救命課長)

救急救命課長

令和6年度の第2回山形市救急救命業務検証会議は2月以降に開催を予定している。

■閉会